



昨年の実績と研修の必要性について

発表者：岐阜長良川ロータリークラブ
研修リーダー 河合 喜三

クラブ内での研修の場として、現在四つの委員会構成の一つのクラブ管理委員会の中に情報担当部門があり、パスト会長3名で委員を務めている。

地区からの情報、新入会員へのエデュケーショナルインフォメーションを行いクラブへの理解と研修、全会員を対象としたIGM（インフォームド グループミーティング）を担当している。IGMは、年5回、1回以上の義務出席、入会年数の若い会員には2回以上の出席を求め、メーキャップ扱いとしている。

前年度も8月、11月、2月、4月、6月と四つの委員会の中でのテーマを決め夕食を交え、会員同士の交流を深め、研修を行った。残念ながらコロナウィルス拡大により、4月を中止としました。

今年度も新入会員がありますので、エデュケーショナルインフォメーションを行います。8月に予定していたIGM中止のため、年5回のIGMもクラブ会報、奉仕活動、姉妹クラブとの交流について、11月以降意見交換と研修を4回計画しています。例会出席だけでは得られない情報や会員の質問、意見などを自由に交換し、研修することはクラブの活性化にも繋がる。コロナの影響で集まる事が難しい状況の中ではあるが知恵をしぼり開催できるよう努力をする。